

をを受けて、その再生を図るため、北海道管林局(現在管理局)では、翌年「団体参加のボランティアの森」事業として参加団体を公募しました。

当札幌森友会(平成3年〜15年までの団体の呼称)の参加が認められて、平成10年12月8日に当時の苫小牧管林署長と「団体参加のボランティアの森」事業として、257林班ほ小班(現在1227班ほ小班)0.5haの地帯と植樹から下刈り終了までの事業協定をしました。

平成11年の春に地帯と植樹(アカエゾマツ1100本)し、夏には下刈り作業を、平成17年まで7年間延11回継続実施しました。

その後、樽前山麓の平成16年の18号台風被害の復興の森づくりは、前植樹地(樽前山麓竜巻被害樹海再生の森)に行く途中の地域であることから、作業終了後にはアカエゾマツくんを訪問することにしました。

ところが、数年前からアカエゾマツ君の生育を妨げる他の樹木が多くなり、見るたびに早くいじめを解消してやりたいとの思いで、管轄の森林管理署に申し出て、今年から「体験林業」の承認を得て、年2回ほど実施する計画です。

「かいちょう」は、今回初めて自分たちのつくった植樹地での除伐作業を行うことは、これ以上の幸せがないような感動しました。

これからアカエゾマツくんは、邪魔ものが取り除かれて、十分な空間と太陽の光を浴び、スクスクと天を突いで伸びることを期待します。

植樹したものは、下刈り終了まで守ってやることだと「かいちょう」は思うのです。

やっぱり一度は行きたいところサハリンの旅

平成26年7月16日

この夏7月14日から17日付北海道新聞朝刊「記者オスメの旅紹介」登山、「列車でサハリン満喫」の記事でした。

これを見て、早速サハリンスアーに詳しい札幌の旅行会社とも連絡が取れて、フェリーの関係もあり前記日程を組むことになりました。

さいわいにこの旅行期間は天気恵まれながら、チエーホフ山標高1045mの登山グループと山麓に延びる約5kmの林道歩きの観察グループに分かれての行事も、予定通り実施できました。

この林道周辺には針葉樹ではヨーロッパトウヒの大木と、広葉樹ではヤチタモやヤナギ類が多く見られた。ガイドの話では、戦前に日本の製紙会社がパルプ材を伐った後に植栽したらしい。

ところで、「かいちょう」は、連日の慣れないロシア料理を今朝もいただき、心の中ではメシ、ミソ汁、ナットウかけの方がなんぼかいいのかと思う自分を恥ずかしいやら情けないやら自己嫌悪至極。

「かいちょう」は、今回初めて自分たちのつくった植樹地での除伐作業を行うことは、これ以上の幸せがないような感動しました。

これからアカエゾマツくんは、邪魔ものが取り除かれて、十分な空間と太陽の光を浴び、スクスクと天を突いで伸びることを期待します。

植樹したものは、下刈り終了まで守ってやることだと「かいちょう」は思うのです。

やっぱり一度は行きたいところサハリンの旅

平成26年7月16日

この夏7月14日から17日付北海道新聞朝刊「記者オスメの旅紹介」登山、「列車でサハリン満喫」の記事でした。

これを見て、早速サハリンスアーに詳しい札幌の旅行会社とも連絡が取れて、フェリーの関係もあり前記日程を組むことになりました。

さいわいにこの旅行期間は天気恵まれながら、チエーホフ山標高1045mの登山グループと山麓に延びる約5kmの林道歩きの観察グループに分かれての行事も、予定通り実施できました。

この林道周辺には針葉樹ではヨーロッパトウヒの大木と、広葉樹ではヤチタモやヤナギ類が多く見られた。ガイドの話では、戦前に日本の製紙会社がパルプ材を伐った後に植栽したらしい。

ところで、「かいちょう」は、連日の慣れないロシア料理を今朝もいただき、心の中ではメシ、ミソ汁、ナットウかけの方がなんぼかいいのかと思う自分を恥ずかしいやら情けないやら自己嫌悪至極。



札幌市長への喜びの報告



こまおかの自然を知ろう



一日となりました。またの機会を楽しみにしております。

(第33号)

環境大臣表彰を受けて
札幌市長への喜びの報告

平成27年7月30日

会を代表して「かいちょう」と矢島渥理事は、去る6月10日に東京都千代田区のグランドアーク半蔵門において、望月義夫環境大臣から「平成27年度地域環境美化功績者」の表彰を受けました。実は、3月19日に札幌市より推薦連絡をいただき、5月21日に同市から受賞内定の通知が入り、6月10日に前記表彰をいただきました。

このようなことで、推薦していただいた札幌市長報告については市の調整で、みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰、「ガーデニングラの会」、森林リクリエーション地域美化活動コンクール農林水産大臣表彰・当センターの三者一緒に7月30日に市長表敬訪問が決まりました。

当日は当センターから「かいちょう・矢島渥理事・高橋喜三雄理事」の三人と他2団体と合流し、市担当者の案内で市長に受賞報告をしました。市長からは各団体の活動のねぎらいと、この活動を次世代につなげてもらいたいとお言葉をいただきました。

「かいちょう」は1分間の報告時間の中で、「このたび私どもに23年間にわたる森林整備や子どもたちの森林環境教育



サハリンの旅



7月16日は両グループが一緒に行動で、湖畔や自然の散策と、名所旧跡巡りです。バスはエジノサハリンスクからヴェリカン岬に向けて走り、ようやくトゥナイチャ湖を通り岬の観光道路の終点に辿り着きました。この道路の片側はオホーツク海沿岸で周辺一帯はカンゾウ類等いろいろな花が咲く原生花園で観光の見せ場となっている。ところが「かいちょう」は思った。道路海側は地盤が弱く崩壊がいついつの間でも、柵も注意標識も一つもなく、また、原生花園にも踏み込み禁止とか花に触るな等の標識は一つもありません。それなのに、事故もなく、踏み込み跡もなく、しっかりと自然の姿が保たれているのは国民性なのかうらやましい限りです。

それから、イズメチャイ湖オホーツクエゴ村に向かう途中の森には、海拔10mにも満たない場所にハイマツが自生しているやら、手つかずの原生林にはエゾマツ、トドマツ、グイマツ等の天然大木が混成している林相は圧巻でした。

折り返しのオホーツクエゴ村レスノアの観光バス折り返し場所では、牧草地の中に「樺太犬・記念碑」があり、牛が放牧されているのか碑に牛糞がドッサリと、地元では観光にはあまり興味がないようで、これがかえって素朴な感じ。

今回の「やっぱり一度は行きたところサハリンの旅」では、旅行会社ファルコンジャパンの杉山社長さんには大

の活動を推薦いただきましたことを感謝申し上げます。これで、ようやく森の活動にもさわやかな光が差し込み明るくなった感じで、大変うれしく思います。この励みをもとにこれからも努力してまいりますので引き続きご指導の程よろしくお願ひします。」と述べた。

「かいちょう」は思った、努力すればいつか結果が付いてくるんだなあ！

(第34号)

「もりのとも」35号発行にあたっての思い

平成28年6月20日

当会も創立25年目と「もりのとも」35号発行に至りました。この歩みを振り返れば、(前記のように)創立1991年の札幌森友会から2003年までは、アウトドア的な活動であり、それ以降のNPO法人では、森林づくりと子ども環境教育のボランティア活動が主体で続けてまいりました。

しかしながら、昨今当会が抱える課題として社会的背景に川上における森林ボランティア活動への支援の希薄化、会においては老若問わず入会者が減少、会員は固定化し高齢化とともに運営幹部の老齢化、森林づくり取り組み地域の手入れ終了期到来、活動参加者の減少等があり、会運営の見直しと体制整備の時期がまいました。

このような諸問題を抱えながらも子どもたちの環境教育や諸団体の